

《第6回アートタウン創造会議》

開催日: 令和元年9月18日(水) 場所: ウエルとばた多目的ホール

新時代創造に「アートタウンの価値観」を共有 —生活文化にアート感覚を—

第6回アートタウン創造会議が9月18日午後6時からウエルとばた多目的ホールで開催された。

安田同会議会長挨拶のあと九州工業大学産学連携部門長本多信行氏と濱武志戸畑区長の激励の挨拶。

2010年に第1回「大学と美術館のあるまち戸畑」をテーマに開始した同会議は10年継続。尾道、別府、二日市、筑後などのアート先進地との交流学习でアート価値観を共有(北九州市、戸畑区、九工大、夢追塾同窓会など後援)

今回は、基調講演として「北九州漫画ミュージアムの情報発信と地域貢献」と題し館長の田中時彦氏。

パネルディスカッションでは、「まちの文化とアートの役割—クリエイター達の冒険—」をテーマに4人のクリエイターたち: 田中時彦氏、佐伯心高氏(第1回会長九工大元教授)、津留誠一氏(九州芸文館長)、安田潤児氏(現会長)のアートタウンへのチャレンジが香月英彦コーディネーター(夢追塾同窓会元会長)の進行で熱く語られた。

基調講演から

漫画は未来や夢を描く。北九州市には、松本零士、関谷ひさし、わたせせいぞうなど100名以上育った全国でも有数な漫画王国のひとつ。小倉駅周辺には主人達の彫刻が出迎える。「漫画の聖地巡礼」といわれるご当地の紹介でまちが活性化する事例が鳥取や高知はじめ全国に点在。北九州漫画ミュージアムは情報発信し地域に貢献。生原画を保有し子ども達の夢や想像力を育てる。北九州市は「ものづくり」を基盤に映画や漫画など「いろいろな文化のつぼ」でもある。「漫画の街北九州」を宣言し今年11月末に「アジアMANGAサミット」を開催する。改めて漫画を中心としたアートタウンの創造を目標にしたい。

パネルディスカッションから

(田中時彦氏)「漫画の黎明期」であった中学生時代にまんが「あず」グループをたちあげ挑戦。これが今につながる。自身も「路地裏のまちなみ」などまちのアートを具現化した。

(佐伯心高氏)九工大産学連携、大分工科短期大学長として技術とアートに挑戦。「現代美術館」の福岡にくらべ戸畑の「北九州美術館」は、こころの美術館北九州。まちに若者を引きつける大学の価値とともに再評価したい。

(津留誠一氏)隈研吾の設計で筑後に九州芸文館を開館して15年。九州クリエイターマーケットで裾野を広げる。交流からアートタウンを目指す。自身も彫刻を通じて関わる。

(安田潤児氏)アートは文化を包含。心やまちを豊かにする。来春の日中韓文化交流に期待。自身もふすま絵や寺院の天井画など現代アートの融合に挑戦。

(香月英彦コーディネーター)九工大学長と北九州美術館長との対談から始まったアートタウン創造会議10年。

本日の田中氏の基調講演からは、映画や漫画のサブカルチャー文化が本格的なアートの基盤に成長したこと。パネルディスカッションの4氏のアートタウン創造へのあくなき挑戦は、北九州、九州、日本から世界への文化とアート創造への挑戦でもあることを実感。市民ひとりひとりがアートの重要性を認識し生活文化のなかに取り入れることが新時代の価値観創造につながる。また、戸畑のアートタウン仕掛け人(プロデューサー)三原信一氏はじめ司会のクリエイターズマーケットの藤野美枝子氏などの地道な活動に感謝する。

報告 夢追塾同窓会 香月英彦(4期)

三原信一(4期)

北九州漫画ミュージアム



九工大キャンパス（正面）



大分県立工科短大と地域 （まちの文化とアート）



九州芸文館・芸術の森デザイン会議と地域 （まちの文化とアート）



九州芸文館は、地域とともに歩む
芸術文化交流施設です。



アートタウンTOBATA



戸畑区の課題を踏まえて、区の将来像を描き、まちづくりの目標を定めます。

- 【目標】 ◆ 利便性・快適性の魅力を高め、街なかに多くの人が住み、安全で便利に暮らせるまちをつくる
- ◆ 福祉・文教のまちとしての街なみ形成を図り、質が高く魅力にあふれるまちをつくる
 - ◆ 伝統・文化をはぐくみ、豊かさと活力のあるまちをつくる。
 - ◆ スポーツ・レクリエーションの場として、健康的で、安らぎと潤いのあるまちをつくる